

序

厚生省母子衛生課所管の心身障害研究課題のうち、小児慢性疾患臓器系に関する研究班は、昭和55年度より新しいテーマで発足することになった。

新たに選ばれた研究班共通のテーマは、「小児慢性疾患の生活指導指針の確立」である。その目的は、慢性疾患を有するこどもにおける健康増進と、心理的な落ちこみの防止ということである。

従来は、慢性疾患を有するこどもは、事故あるいは疾患の増悪に対するおそれから、ややもすれば運動も禁止され、保護者も過保護にしてしまう傾向がみられている。そのためこれらの患児は日常生活、学校生活が消極的になってしまいやすいが多かった。

しかし最近では慢性疾患を有する患児においても、それなりに健康を増進し、他の感染症の合併などがおこらないような体力づくり、抵抗力の養成、さらには精神的な鍛練などが必要と考えられる。

この研究班では、全体として慢性疾患児の心理調査を行い、各疾患に適した日常生活管理指針および心理指導指針の確立を目指すものである。

各研究班の研究課題と研究班員は次のごとくである。

「小児慢性疾患（臓器系）に関する研究」

生活指導指針に関する研究

気管支喘息	三河春樹（京都大学小児科）
高脂血症	藪内百治（大阪大学小児科）
川崎病	草川三治（東京女子医大小児科）
心疾患	大国真彦（日本大学小児科）
若年性関節リウマチ	寺脇保（鹿児島大学小児科）
腎疾患	堺薫（新潟大学小児科）
エクスプリマチアチャイルドの長期養護	馬場一雄（日本大学小児科）

その他今年度はこの研究班の中で、母子健康手帳に関する研究グループを愛育会高橋悦二郎部長にまとめて戴き、心理に関する研究グループを筑波大学長畑正道教授にまとめて戴いたものをこの報告書に含めた。昭和56年度は前者は他の研究班に移し、後者はこの研究班でそれぞれ研究班として発足する予定である。

本報告書はこれらの研究班の昭和55年度の研究をまとめたもので、多くの注目すべき業績が含まれている。御活用を期待するものである。

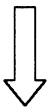
昭和56年3月

主任研究者（班長）

日本大学教授 大国真彦



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



序

厚生省母子衛生課所管の心身障害研究課題のうち、小児慢性疾患臓器系に関する研究班は、昭和 55 年度より新しいテーマで発足することになった。